

5月5日(火)

真の命

聖書朗読 IIコリント 11:24~33

私はあなたがたのためには、大いに喜んで財を費やし、また私自身をさえ使い尽くしましょう。私あなたがたを愛すれば愛するほど、私はいよいよ愛されなくなるのでしょうか。
IIコリント 12:15

「低温殺菌」の牛乳を飲むことがあったら、ルイス・パスツールを思い出してください。医薬の分野で偉大な貢献をした人物です。ワクチン、血清、防腐剤に関わる研究を行い、それにより、多くの人の命が救われることとなったのです。彼の友人が彼に、自分の調剤薬を試す際、感染などのリスクがないのかと尋ねると、彼はこう答えたそうです。「そんなことは大したことでないさ。危険と隣り合わせの生き方こそ真の生き方であって、自らを捧げる生き方なんだよ。」

パウロも、同じような生き方をした人物ではないでしょうか。彼ほど命の危険を冒し、自らを犠牲にし、命を捧げた人物は他に思い当たりません。パウロが唯一目指したものの、それは、キリストを教え、キリストを分かち合い、キリストに生き、そして、永遠にキリストとともにあることでした。彼の生き方こそ真の生き方ではないでしょうか。「十字架の道」により、彼は自らを犠牲にする只中にあっても、この上ない喜びを見出したのです。彼は「艱難さえも喜んでいきます」と述べています。

パウロは、どれだけ艱難があり、犠牲を払っているかなどと考えることもなく、彼の思いはひたすら、奉仕による喜びに向けられていました。このことはディビッド・リビングストン博士を彷彿とさせます。彼はアフリカで様々な困難に遭ったにも関わらず、このような言葉を残しています。「私は人生において、犠牲など何一つ払っていない」。宣教師たちの多くも、同じことを語っています。

讃美歌 第二編 95

祈り 親愛なるお父様、「十字架の苦しみに耐え、辱めを受けられた」主の足跡を私たちにも辿らせてください。主にある働きにおいて、私たちも自らを犠牲にすることができるようにお導きください。
イエス様のお名前によって。アーメン。

M・ノーベル・ヤング 1962

5月6日(水)

私を知っておられる

聖書朗読 ガラテヤ 4:1~11

今では神を知っているのに、いや、むしろ神に知られているのに、どうしてあの無力、無価値の幼稚な教えに逆戻りして、再び新たにその奴隷になろうとするのですか。
ガラテヤ 4:9

私たちは、握手の手を差しのべられたり、挨拶をされたり、ただ頭で会釈をしてもらうだけでも、相手が自分の存在に気付いてくれたと思うと、嬉しくなるものではないでしょうか。例えば、かつて自分を教えてくれた教授が町へやって来て、彼の講義を聴講したとしましょう。もし彼が、大勢いる聴衆の中に私を見つけ、講義の後で側へやって来て、昔の懐かしい思い出話をしてくれたら、どんなに嬉しいことでしょうか。話し手が、大勢いる聴衆の顔を見渡して、その中に友人を見つけて微笑みかけてくれるとき、気付いてもらったその友人は、どんな誇らしく、また、嬉しく思う事でしょうか。

けれども、単なる人ではなく、神に自分の存在が知られ、さらに、気に掛けていただいているということと比べたら、上述したようなこの上なく嬉しい経験さえ、小さなことと思えてきます。物質的な豊かさや家柄、教育水準、そのようなものは一切、神に自分を知っていただくための条件にはなりません。神に知られるための唯一の条件は、ただ神を愛することです。けれどもこの条件は、むしろ、神の子らにとっては、神が与えてくださるその偉大な愛への応答として自然なことではないでしょうか。クリスチャンがいつも歌う「主を愛さずにいられようか」という讃美歌のように。

讃美歌 312

祈り 父よ。あなた様が私たちを探り、知ってくださり、そして、愛してくださることを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アニー・メイ・ルイス 1965

5月7日(木)

優しい御手

聖書朗読 ガラテヤ 6:1~6

主を恐れる女はほめたたえられる。彼女の手でかせいだ実を彼女に与え、彼女のしたことを町囲みのうちでほめたたえよ。
箴言 31:30~31

ある人はこう言います。「人の人生を映し出すのは顔ではなく手だ」と。大工のこぶしは、その手がしっかりと握って振り回すハンマーのように硬くなるもの、ヴァイオリニストの指先は、ヴァイオリンの弦の上で多彩な動きが出来るよう、巧みに動くようになるもの。神の御手は、陶器師の手にたとえられますが、私たちはそれが力強い御手であると同時に、優しい御手である事を知っています。この全世界を収められる程力強く、また一方で、小さな幼子を抱かれるほど優しい御手なのです。

私は、母の手をいつも羨ましく思っていました。母の手は、指がほっそりとして長く、美しい爪をしていました。それに比べて私の指は短く、爪もとても脆いのです。見た目もさることながら、母の指先が映し出していた人生を、私は称えずにはいられません。その指先は多くの涙をぬぐってきたことでしょうし、子どもたちへの熱い思いから、その指先で、娘たちを叱りつけたことでしょう。娘たちそれぞれの個性に合わせて、その指先を使って服を作ってくれた事でしょう。娘たちが誕生した時には、喜びに溢れて手を高く上げ、また、誰かの死を迎えた時には、悲しみによって、その指はしっかりと組み合わされたでしょう。サクサクしたパイを作れるほどしなやかな指であると同時に、家族の荷物はしっかりと運べるほど頑丈だったことでしょう。そして、その手は、他者のために差し出され、祈りのために組み合わされたことでしょう。

手と同じように、命も使わないで怠っていると、衰え、利己的な思いによってねじ曲がり、醜い思いによって荒んでしまうものではないでしょうか。自己の内面は、表に現れてくるものです。

讃美歌 393

祈り 父よ。心から喜びをもって他者に仕えることの出来る手と、それを使う機会を多く与えてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジョイス・ハーディン 1985

5月8日(金)

赦しのゆえに

聖書朗読 エペソ 1:3~14

この方にあつて私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。
エペソ 1:7

これまでの人生を振り返ってみると、私の霊的な歩みは、明らかに、気づかないうちにじわじわと衰えていってしまいました。イエス様のお働きを正しく理解していないことも多く、また、イエス様に心から信頼して、自分の歩みを委ねることもせず、むしろ、自分の力で自分を完璧にしようともがいていました。そのような信仰の歩みをしていた当時、他者に対する苦々しい思いが積み重なり、時とともにその苦々しい憎しみは不誠実さを産み、そうした思いはさらに酷いものとなっていきました。

ところが、ある時突然、私は神との関係における自分の立ち位置に気づかされました。私は、失われた者の場所に立っていたのです。その時初めて、私の過去は取り返しのつかない程、許し難いものであり、消し去ることはできない事だと、はっきりと認識しました。私には勿論逃げ道などありませんでした。出来る限りのことをし尽くしても、自らを正当化することは到底出来ませんでした。

そうして絶望の思いで日々を過ごすにつれ、私は徐々に、イエス様がこの世にやって来られ、何をしてくださったのかが分かり始めたのです。完全なお方であったにもかかわらず、不完全なものが受けるべきもの、すなわち、死の苦しみに遭われ、私自身がどうしようもない罪人であるがゆえに、イエス様は死んでくださり、私の罪を背負ってくださったのだということ。私を自由にしてくださるために、赦しと救いをお与えになったのです。私の霊的な命は、自分自身の努力では、決して贖うことはできなかったものです。

イエス様の赦し、そして、壊れた私の関係を修復して下さったことのために、私は心から救い主を愛します。

讃美歌 461

祈り 父よ。赦しという霊的な恵みを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジョン・M・ホワイト 1968

5月9日(土)

神にある平安

聖書朗読 エペソ 2:11~22

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。 ピリピ 4:6

心の平安は、いつも保っていられるものでしょうか。恐れを抱くことが多すぎはしませんか。将来が不確かなためにとても不安になり、霊的なものまで脅かされるほどになることはないでしょうか。

御父のご臨在とお導きを認めることによって、大いなる平安がもたらされます。イエス様は、すべての者に、神の御霊に近づく道を与えるため、この世にやって来られました。その例外はひとりもなく、いつも神に近くあった者も、かつては遠く離れていると思われていた者もすべてです。イエス様によるこの神への道は、私たちを希望に満ち溢れさせてくださり、その希望は不安を打ち砕き、私たちの魂を平安で満たして下さいます。

何も恐れるものはありません。私たちは、神がともにいてくださることを知っているからです。神は、私たちを、究極の喪失、神との関係にあるいのちの喪失から救って下さいます。こうした確信のゆえに、将来起こるかもしれないどんな問題にも心を備えて、先へ進むことができます。神に仕える事以外に、何も差し迫ってなすべき事はないのです。神に仕える事によって、私たちには霊的に平安が与えられ、イエス様を通して神に近づくこの道を、周囲の人々にも伝えたいという思いが与えられるのです。

平安をいかに見失ってしまうことだろう。
無用の苦しみをどれだけ抱えていることだろう。
自ら背負うものは何もないのに。
すべては祈りをもって、神に委ねよう。

——— *Joseph Scriven*

讃美歌 528

祈り お父様。祈るとき、平安を与え、悲しみに打ちひしがれるとき、癒しをお与えください。あなた様のお名前によって、大胆になることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ウィリアム・ティーズ 1971

5月10日(日)

修復は早期に

聖書朗読 エペソ 4:17~32

怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。悪魔に機会を与えないようにしなさい。 エペソ 4:26~27

私が結婚する少し前に、妻の父親がアドバイスしてくれました。それは、「怒ったまま寝てはいけません。その日のもめ事は、寝る前に解決しなさい」というものでした。経験を重ねていくうちに、それがいかに有効なアドバイスであったかが分かります。

怒りほど、関係を蝕むものはありません。怒りの爆発によって、愛で結ばれた多くの関係が崩壊します。壊れかけた関係をすぐに修復できなければ、互いの傷を深くすることとなり、怒りを消し去らなければ、荒んだ関係はいつまでも続くことでしょう。

いさかきをいつまでも解決しないままずるずると引きずってしまったために、壊れてしまった家庭が多くあります。ほんの些細な誤解であっても、関係は傷つくものです。大切な趣味にはどのぐらい時間をかけてよいか。家族の決め事に子どもが従わないことについて、他のしつけ方をした方がよかったのではないかとという言い争い。前年のクリスマスには、どちらの実家を訪問したか。休暇には出かけるべきか、家の修理をするべきか。こうした些細な事が積み重なり、取り返しのつかない結果を招くのです。不調和がある程度積み重なると、最高に素晴らしかった結婚でさえ、崩壊しうるのです。

家庭とは、交響楽団のようなものではないでしょうか。全体的なメロディーを奏でるのに、楽器それぞれが役割を果たしています。どんな演奏家でも、時には、外れた音を出してしまうことがあるでしょう。けれども、もしその演奏家が外れた音で演奏し続けたなら、ほかの演奏家たちも影響を受け、その結果、その演奏は、とても乱れた不協和音を奏でることになるでしょう。家庭も、交響楽団と同じように、すべての楽器が調和して音色を奏でるなら、素晴らしい家庭のハーモニーを奏でる事ができるのです。

讃美歌 521

祈り 主よ。辛辣な言葉を吐いたり、恨みの感情を抱いたりしたとき、どうかお許しください。私たちの不愉快な態度や頑なな心を、こらしめてください。父よ、どうか私たちのうちに、長く続く愛を根づかせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ダン・アンダー 1967